

## 地盤調査法に応じた地盤変形係数および地盤反力係数の算定法

西岡英俊 安西綾子 神田政幸 舘山勝

基礎の設計に用いる「地盤の変形係数」および「地盤反力係数」は、微小ひずみレベルから非線形性を示す地盤材料に対して、ある特定の設計条件（ひずみレベル、作用時間）における等価線形剛性として定義される設計パラメーターである。しかしながら、同じ地盤であっても地盤調査法が異なれば調査精度が異なるだけでなく、そのひずみレベルの違いや試験の境界条件の違いによって異なる値が計測される。本論文では基礎標準の性能規定化に向けた改訂作業の一環として、地盤の変形係数および地盤反力係数に関して、このような地盤調査法別の違いを補正するための考え方を明示するとともに、統計結果に基づいて部分安全係数および修正係数を導

入した。これにより設計者が解析手法に応じて各設計値を合理的に設定できるようになるほか、適切に地盤調査を実施して精度の良い情報を詳細に把握することで設計が合理化できることとなる。

(鉄道総研報告, 2010年7月号)

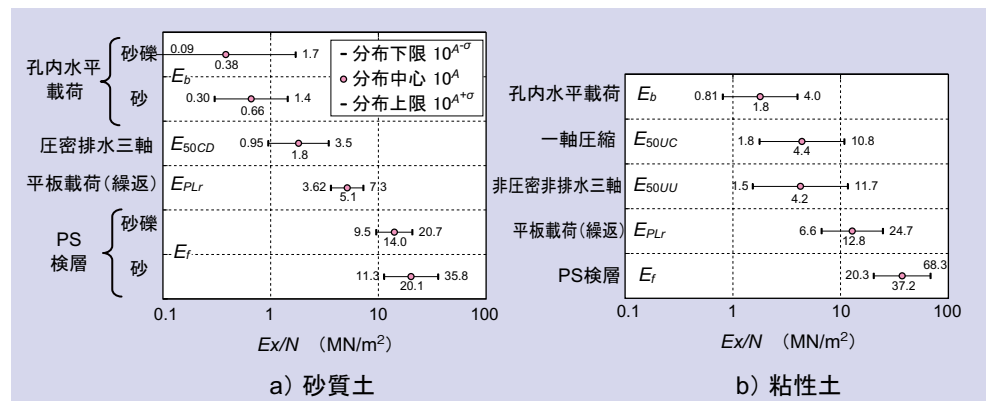


図 地盤調査法別の地盤の変形係数 $E_x$ と $N$ 値の比の分布範囲